

めぶきアセアンレポート

MEBUKI ASEAN REPORT

2019年4月号

- ◇ 【 バンコク通信 】～タイの観光産業の動向～ P. 1
- ◇ 【 フィリピン通信 】～フィリピンへの外国直接投資（FDI）動向～ P. 3
- ◇ 【 アセアン駐在員コラム 】 P. 5
- ◇ 【 アセアン各国株式市場・為替情報 】2019年3月の動き P. 7
- ◇ 【 アセアン各国ニューストピックス 】 P. 8
- ◇ 【 アセアン・インド休日情報 】2019年4月～2019年6月 P. 9
- ◇ 【 めぶきアジアネットワークのご紹介 】 P. 10

常陽銀行シンガポール駐在員事務所

63 Market Street #11-03
Bank of Singapore Centre,
Singapore 048942
TEL:65-6225-6543

常陽銀行ハノイ駐在員事務所

5th Floor, Sun Red River,
23 Phan Chu Trinh Street,
Hoan Kiem District, Hanoi, Vietnam
TEL:84-24-3218-1668

足利銀行バンコク駐在員事務所

689, Bhiraj Tower at EmQuartier,
27th Floor, Room No.2714,
Sukhumvit Road, Klongton-nue, Wattana,
Bangkok 10110, Thailand
TEL:66-2-261-2852

本レポートの内容につきましては、当行の信頼し得る先からの情報に基づいて作成しておりますが、その正確性、信頼性を保証するものではありません。具体的に法律上、会計上、税務上の助言を必要とされる場合は、それぞれの専門家にご相談くださいますようお願い致します。

発行元：常陽銀行市場国際部



バンコク通信～タイの観光産業の動向～

タイでは温暖な気候や豊富な観光資源を活かした観光産業が発達しており、近隣諸国やアジアのなかでも有数の観光大国となっています。そこで今回はタイの観光産業の動向についてレポートします。

1. 世界的な国際観光市場におけるタイ

国連世界観光機関（UNWTO）が実施した調査によると、2017年の国際観光客数は世界全体で7.0%増加し、前年比8,600万人増加の13億2,600万人を記録しました。また、同調査によれば、2030年には世界の国際観光客数が18億人に到達すると予測されています。世界的に国際観光市場が拡大するなかで、タイは古くから観光産業が発達しています。2017年時点で観光客数は世界第10位、観光客がもたらす観光収入は、米国・フランス・スペインに次ぐ世界第4位です（図表1）。なお、タイの国際観光収入は同国GDPの約10%程度を占めており、観光産業がタイの経済を大きく支えています。



2. 訪タイ観光客の動向

足元の訪タイ観光客数は堅調に推移しており、2018年の観光客数は3,827万人と過去最高の実績を記録しています（図表2）。国別の動向をみると、中国からの観光客数が最大で年間約1,000万人、また、日本は第5位で年間約165万人となっています（図表3）。いまや中国は世界全体の観光支出を牽引していますが、タイにおいても同様に、地理的な近さ、中国-タイ間の就航便の増加、タイ政府が実施した中国観光客に対するビザ無償化などの要因により、中国からタイへの観光客数が拡大しています。そのほか近年では、自国の経済成長を受けて、インドやロシアからの観光客も増加傾向にあります。



【図表3：国別訪タイ外国人観光客】(単位：万人)

	国名	旅行者数	前年比	伸び率
1	中国	1,053	+73	7.4%
2	マレーシア	409	+74	22.0%
3	韓国	179	+9	5.2%
4	ラオス	175	+14	8.6%
5	日本	165	+11	7.1%
6	インド	159	+18	12.7%
7	ロシア	147	+11	8.0%
8	アメリカ	112	+7	6.6%
9	シンガポール	106	+3	2.9%
10	ベトナム	102	+9	9.6%

(出所：Ministry of Tourism and Sports)

3. タイ人の海外旅行動向

タイは観光大国として訪タイ観光客数が大きく増加していますが、タイから海外へ旅行する人数についても右肩上がりの増加傾向にあります（図表4）。渡航先別でみると、マレーシア、ラオスなど近隣諸国への旅行者が多いなか、日本への旅行者も年々増加しており、2017年は91万人と3番目に多く、タイ人にとって日本は人気の観光地です（表5）。

海外旅行者が増加している主な要因としては、タイの経済成長を背景に家計所得が増加していることや、LCCが普及したことで航空運賃が低く抑えられたことなどがあげられます。また、タイへの観光客や海外駐在者が増加したことで、タイに各国の文化などが浸透してきたことも、タイ人の海外旅行マインドを高める要因と考えられます。

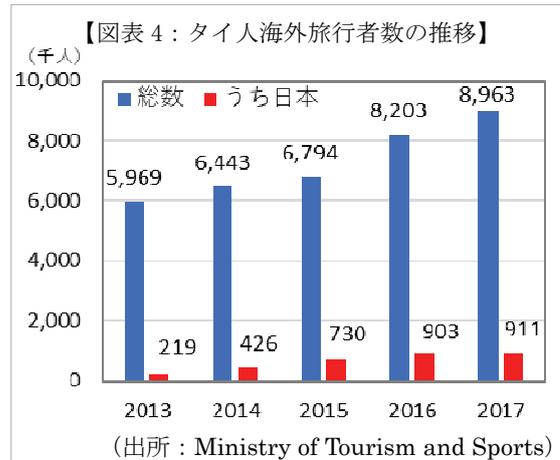
旅行者数が増加していることに加えて、1回あたりの旅行支出額も増加しており、タイ人旅行者の支出総額については、数値の発表がある2013年から2017年の4年間で約2倍の水準まで増加しています（図表6）。今後もタイの経済成長とともに家計所得が増加することが期待され、タイ人旅行者が海外で消費する金額についても増加していくことが見込まれます。また、そのほかタイ人旅行者の特徴としては、団体旅行ではなく個人旅行を選ぶ割合が多く、こうした旅行者は、タイで開催されている旅行フェアやインターネット・SNSなどで情報収集をして、自ら企画し旅行を楽しんでいるようです。

4. おわりに

タイは、豊富な観光資源を生かして観光産業の発展に力を注いだ結果、海外から多くの人が訪れる魅力ある観光大国に成長しました。また、タイ人海外旅行者数が増加するなかで、日本のインバウンドの面でもタイの果たす役割は大きいものと考えます。観光産業の発展が両国経済の更なる拡大に繋がるものと期待し、今後の動向を注視していきます。

以上

【足利銀行バンコク駐在員事務所 駐在員 塚本 修平】



【図表5：国別タイ人海外旅行者数】(単位：千人)

	国名	旅行者数	前年比	伸び率
1	マレーシア	1,750	-81	-4.4%
2	ラオス	1,471	+241	19.5%
3	日本	911	+8	0.9%
4	中国	601	-24	-3.9%
5	シンガポール	511	-31	-5.7%
6	香港	503	+2	0.5%
7	韓国	456	+60	15.3%
8	ベトナム	308	+47	18.3%
9	台湾	282	+67	31.5%
10	ミャンマー	239	+99	71.5%

(出所：Ministry of Tourism and Sports)

【図表6：タイの旅行関連指標の推移】

	2013年	2017年
・タイ人海外旅行者支出総額	1,464億THB	2,876億THB
・1回あたり平均旅行支出額	24千THB	32千THB
・1回あたり平均旅行日数	5.0日間	5.7日間
・個人旅行者の割合	78%	72%

(出所：Ministry of Tourism and Sports)

フィリピン通信～フィリピンへの外国直接投資（FDI）動向～

今回は、外国企業（日本からの投資を含む）の対比投資状況についてレポートします。

1. はじめに

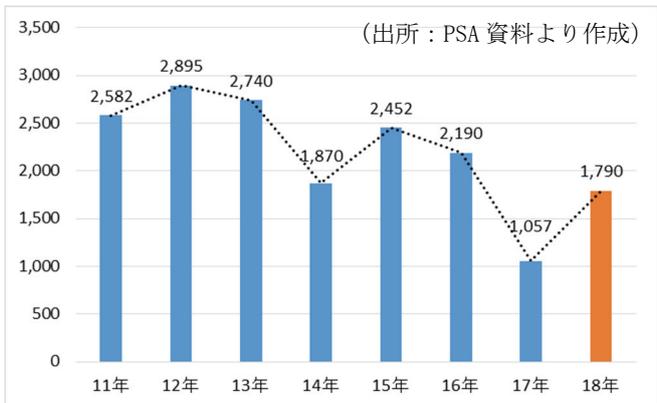
外国直接投資 Foreign Direct Investment（以下、FDI）とは、外国企業による長期の海外投資、国際間資本移動のことを言います。例えば、現地法人の設立や資本参加、不動産取得などを通じて海外投資を行うような場合が FDI に該当し、外国企業が投資対象国に対してだけ投資を行ったかという指標の一つです。

このほど、フィリピン統計庁（PSA）が 2018 年の FDI 認可額を発表しましたので、フィリピンへの FDI 動向についてレポートします。

2. フィリピンにおける FDI 流入の全体像

はじめに、フィリピンにおける FDI 流入額の全体像を見ていきます（図 1）。フィリピン統計庁（以下、PSA）の発表によると、フィリピンに対する 2018 年の外国企業からの投資額は、前年比 69% 増の 1,790 億ペソ（約 3,580 億円）で、3 年ぶりに上昇に転じました。海外から投資が増えた要因としては、①GDP 成長率が 6% を超える水準で力強く成長を続けるなど、フィリピンファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）が良好に推移している点、②対ドル換算でペソ安が進展した点などが挙げられます。

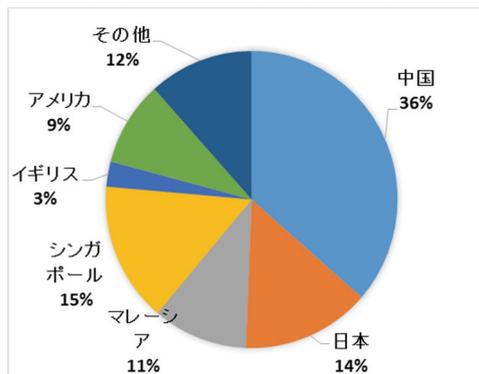
【図 1：FDI 流入額（単位：1 億ペソ）】



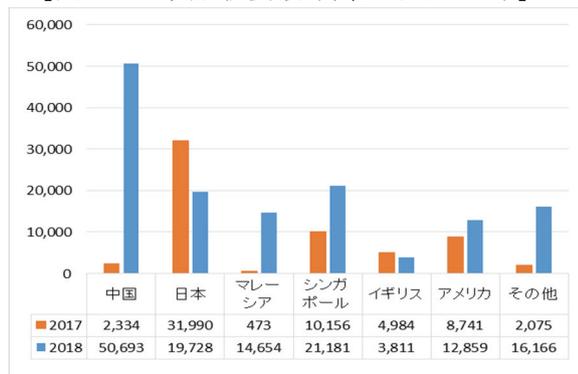
3. FDI 国別・地域別投資割合～中国の台頭と日本からの投資減退～

2018 年の FDI の国別・地域別投資割合は、図 2、3 の通りとなります。

【図 2：FDI 国別投資割合】



【図 3：FDI 国別投資額（単位：百万ペソ）】



（出所：共に PSA 資料より作成）

2018 年は中国からの投資が前年対比で約 22 倍増加し、日本の FDI を抜いて首位に浮上しました。投資額でみると、中国が 507 億ペソとなり、全体に占める割合は、2017 年の 2% か

ら36%に急拡大しました。2017年に全体の30%を占め首位だった日本は、2018年のには前年比38%減の197億ペソ（シェアは14%）にとどまり3位まで後退しています。

中国からの投資が増加した背景には、昨年11月、習近平国家主席がフィリピンを訪問し、ドゥテルテ大統領と会談した際、資源の共同開発やインフラ整備などで合計29件の協力文書が交わされたことが挙げられます。

一方、日本からの投資は減退しており、経済特区庁（以下、PEZA〔フィリピン各地に位置する公営および民営の輸出加工区に投資する企業に対し、各種優遇措置を付与している機関〕）に登録する企業への法人税免除措置撤廃と、普通法人税支払義務化の動きが影響しています。その他、日系製造業に対して有期雇用契約（ENDO）の取締りの対象となる事例が複数確認されるなど、企業リスクが増大していることが投資減退要因に挙げられます。

実際に、現地の日系企業では、需要増加に対応するため、フィリピン工場の拡張事業計画を取止めている企業もできています。

4. 産業別のFDI投資額

産業別のFDI投資額については表1の通りとなります。特に科学・技術・管理・支援サービス等のBPO産業（ビジネス・プロセス・アウトソーシング：顧客企業の業務の一部を請負う）は近年、投資額が増加しています。背景には、他の産業に比べ外資規制が緩やかなこと、フィリピンの公用語の1つが英語であることが挙げられ、世界第3位の英語人口国である優位性も追い風になっています。また、第二次税制改正で、PEZA登録輸出加工型製造業が税負担の増加に不安を抱えるなか、BPO産業は、法人所得税減税（現行の30%から最終的に20%まで引下げ）による恩恵を受けられる可能性が高まっています。税制面におけるメリットが同分野の投資を増加させている要因の一つと言えます。

【表1：産業別FDI（単位：百万ペソ）】

産業	2017年	2018年	前年比
農林水産業	1,038.4	211.4	▲79.6%
鉱山・砕石業	-	235.1	-
製造業	55,005.1	85,124.8	54.8%
電気・ガス・空調	5,213.8	30,048.2	476.3%
上水道・廃棄物管理	43.5	0.0	-
建設	527.6	8,807.7	1569.4%
卸売・小売・自動車修理	870.3	5,468.0	528.3%
運輸・倉庫	1,440.9	3,781.1	162.4%
宿泊・外食サービス	1,622.5	554.9	▲65.8%
情報通信	2,737.9	3,115.5	13.8%
金融・保険	620.6	476.0	▲23.3%
不動産	22,420.9	20,055.2	▲10.6%
科学・技術サービス	151.2	687.3	354.7%
管理・支援サービス	13,943.8	20,118.1	44.3%
行政・防衛・社会保障	0.9	0.0	▲100%
教育	37.5	181.8	384.4%
保健・社会福祉	0.6	10.9	1653.3%
芸術・エンターテインメント	68.1	87.0	27.7%
その他	1.9	4.2	125.1%
合計	105,745.5	178,967.2	-

（出所：PSA資料より作成）

5. まとめ

日系製造業のフィリピン進出は、企業リスクが増大していることから減退していますが、サービス産業については労働供給力が高く、豊富な英語人口を有することから、フィリピンでのBPO産業の成長率は大きいと言えます。

現在、第二次税制改正は審議中であり、審議結果によって投資環境が大きく変化する可能性があることから、引き続き動向に注視していきます。

以上

【BDOユニバンク マカティ駐在 松本 晃佳】

アセアン駐在員コラム

アセアン駐在員コラムでは、東南アジア各国で生活している駐在員や現地スタッフからの情報を毎月発信しています。



【シンガポール】～シンガポールの「Sakura Matsuri」～

熱帯気候のシンガポールでも花見を楽しめるように、日本から30種類のさくらを集めた「Sakura Matsuri」が、3月9日～3月31日に観光名所である Gardens by the Bay で開催されました。フラワードーム内は日本の春と同様にさわやかな空気と心地よい温度に設定され、さくらを鑑賞することができます。ドーム内にもかかわらず、真っ赤な鳥居と栈橋が設置されて、日本文化を体験することもできます。現地人や観光客が、レンタル浴衣を着用し記念写真をする姿は、異文化交流を実感できる光景でした。その他、日本で見られる縁日の射的やヨーヨー釣りが開催されたり、日本人コーラス隊による歌唱披露が行われたり、シンガポールにいながら日本同様の花見を体験できるイベントでした。

【ガーデンバイザベイ内のさくら】



(常陽銀行シンガポール駐在員事務所 現地スタッフ 関 順)



【ベトナム】～ベトナム初の高架鉄道開通～

ベトナム運輸省は、ハノイ都市鉄道2A号線(ドンダー区カットリン駅～ハドン区イエンギア駅間、全長約13.1km、計12駅)の商業運転を4月から開始する見通しであると発表しました。このベトナム初の高架鉄道は、バイクや車に代わる新たな移動手段として渋滞緩和に効果があると期待されています。運行は3～5分に1本の間隔で予定され、運賃は距離に応じ、8,000ドン～15,000ドン程度(約40円～75円)になる予定です。

【2A号線試運転の様子】



この他にも、ハノイ市内を通る高架鉄道計画は数多くあり、工事が進められています。バイク・車・バスでの移動が主であるベトナムにおいて、鉄道を利用する人が多くなるには時間が掛かるかもしれませんが、将来、高架鉄道が全面開通した際は、またハノイを訪れ、多くのベトナム人で満たされた電車に乗ってハノイ市内を巡ってみたいと思います。

(常陽銀行ハノイ駐在員事務所 駐在員 安彦 秀紀)



【タイ】～タイの総選挙～

2019年3月24日、タイで総選挙が実施されました。2014年2月以降軍政が続くなかで、選挙の実施は約8年ぶりとなります。タイの国会は上院と下院の2院制となっていますが、今回は下院の500議席を決める選挙となります（上院250議席については軍政による任命）。投票権を持つ有権者数は約5,100万人、また立候補者については約1万3千人と過去最高を記録しています。

選挙当日は、タイ全土において公共施設や公園など屋外に設置された投票所で午前8時から午後5時まで投票が実施され、終了後には、投票所の集計結果がその場で公表されていました。選挙演説などでは一部混雑は見られましたが、選挙期間を通して、大きな混乱は起きず無事に投票まで終わりました。タイの政治の節目に立ちあえたことは貴重な体験でした。

(足利銀行バンコク駐在員事務所 駐在員 塚本 修平)

【バンコク市内の投票所の様子】



【フィリピン】～フィリピンの訪日観光事情について～

先日、フィリピンで旅行博が開催されました。日本ブースの旅行代理店のカウンターには、予約に並ぶフィリピン人で長蛇の列が出来ており、訪日旅行人気の高さを実感できました。

これまで、フィリピンでの日本文化に対する人気について紹介してきましたが、旅行先としての人気も非常に高くなっています。日本は、フィリピン人にとって一度は訪れてみたい国の上位に入ります。実際にフィリピンからの訪日客数は増加しており、昨年2018年のフィリピンからの訪日客数は前年比2割増の約50万人に達しました。旅行先については1位が東京、2位が大阪、3位が千葉県となっています。リピーター率も48%と高く、2回目以降の来日では、富山県、岐阜県、長野県など、大都市圏を離れた風情ある場所を好むようです。

(BDOユニバンク マニラ駐在 松本 晃佳)

【旅行博の様子】



アセアン各国株式市場・為替情報（3月）

アセアンの株式・為替市場の動向について（3月）

国	株式市場				為替市場			
	株価指数	月末株価	月間騰落額	月間騰落率	通貨単位	月末為替レート(円)	月間騰落額	月間騰落率
シンガポール	ST指数	3,212.88	0.19	0.01%	1シンガポールドル	81.77	-0.62	▲0.75%
マレーシア	KLCI総合指数	1,643.63	▲64.10	▲3.75%	1リンギット	27.13	-0.10	▲0.37%
タイ	SET指数	1,638.65	▲14.83	▲0.90%	1バーツ	3.49	-0.03	▲1.13%
フィリピン	フィリピン総合指数	7,920.93	215.44	2.80%	1ペソ	2.11	-0.04	▲1.40%
インドネシア	ジャカルタ総合指数	6,468.76	25.41	0.39%	100ルピア	0.78	-0.01	▲1.27%
インド	SENSEX指数	38,672.91	2,805.47	7.82%	1ルピー	1.60	0.03	1.91%

出所：Bloomberg

【株式市場】

➤ シンガポール：外部環境を注視しながら、小幅な値動きで展開

米中協議が順調と伝わり投資家心理が改善し上昇したあと、アジア経済減速警戒感が広がりから下落に転じた。中旬以降は、米株高を好感し上昇基調に転じたが、25日に世界景気減速懸念が広がり大幅下落した。シンガポール ST 指数は前月比 0.01% で取引を終了した。

➤ マレーシア：景気減速懸念から利下げ観測が高まる

米中貿易摩擦の不透明感や政治的不安定さ、利下げ観測の台頭により下落基調で推移。中旬に反発したものの、利下げ観測の高まりや米国の逆イールドを嫌気する投資家が多く、買い手不在のまま下落し、マレーシア KLCI 指数は▲3.75% で取引終了した。

➤ タイ：タイ総選挙を控え一進一退の展開

タイバーツ安と決算発表の失望売りが重なり、タイ SET 指数は下落スタート。総選挙を控えた各党の動向を受け、一進一退の値動きで推移した。世界的リスクオフで下落も月末にかけて持ち直し、タイ SET 指数は前月比▲0.90% で取引を終了。

➤ フィリピン：中央銀行の経済成長促進に期待

憲法改正や貧困率の改善等を材料に大幅上昇。その後石油関連株主導で下落も、企業決算を受け反発した。経済成長の促進に意欲的な中央銀行への期待から約 1 ヶ月半ぶりの 8,000pt を越える。月末はリスクオフの動きもあり、フィリピン総合指数は前月比 2.80% で取引を終了。

➤ インドネシア：国内初の鉄道始動や大統領選を控えインフラ株が好調

4日反落後も下落基調で推移。13日、インドネシア初の鉄道開業予定が発表されたことや大統領選世論調査を受け大幅反発した。25日に世界景気減速懸念から大幅安となるも、その後は緩やかに上昇に転じ、ジャカルタ総合株価指数は前月比 0.39% で取引を終了。

➤ インド：現政権続投期待や利下げ観測から年初来高値を更新

原油下落による経常赤字拡大懸念の後退等を材料に、上昇基調で推移。現政権の続投による政策安定期待や追加利下げ期待などから大幅続伸した。25日に反落するも、新興国からの資金流出懸念後退やルピーの続伸を受け大幅反発、年初来高値を更新し前月比 7.82% で取引を終了した。

【常陽銀行シンガポール駐在員事務所 駐在員 関 貴弘】

アセアン各国ニューストピックス

◎経済

- シンガポール
 - ・Sパス採用枠の基準を厳格化 7月からローカル社員給与額改定 (3/7)
 - ・国内食料自給率、30年までに30%に引き上げ (3/11)
 - ・2月製造業生産は0.7%上昇 プラスに転換も電子など不振続く (3/27)
- マレーシア
 - ・マレーシア政府、CPIに代わる新たな指数の導入検討 (3/5)
 - ・19年の成長率は4.3~4.8% 中銀、民間消費は「正常化」する (3/28)
 - ・中銀が外国為替規制の緩和を発表 (3/29)
- タイ
 - ・タイが月内にTPP申請、日本企業に恩恵も (3/4)
 - ・政策金利据え置き、GDP予測は下方修正 (3/21)
 - ・FP0、輸出鈍化で成長率予測を下方修正へ (3/26)
- インドネシア
 - ・2月の貿易収支、5カ月ぶりに黒字 (3/18)
 - ・EUに輸入規制で報復を検討 WTOに提訴も、パーム油規制で (3/22)
 - ・現状の開発は持続性不可能、企画庁が報告書 (3/29)
- フィリピン
 - ・過去最大の経常赤字79億ドル 貿易収支悪化でアジア危機時超え (3/18)
 - ・企業景況感5期ぶり上向き 1Q、インフレ弱まり選挙に期待 (3/29)
- ベトナム
 - ・スタートアップへの投資拡大 1月は1億ドル、外資が積極化 (3/6)
 - ・南部で中国企業の投資増加、貿易摩擦も影響 (3/11)
 - ・大衆富裕層、30年には16%に 拡大する高額商品市場狙う企業も (3/26)

◎その他

- シンガポール
 - ・ジュエル・チャンギ、4月17日に開業 (3/8)
 - ・ビジネスメール詐欺、18年は東南アで最多 (3/13)
 - ・ホーカー文化を登録申請、無形文化遺産に (3/29)
- マレーシア
 - ・空気汚染指数が100超え 季節外れのヘイズ、要因は異常気象 (3/22)
 - ・国家遺産局、伝統料理のユネスコ登録を検討 (3/27)
- タイ
 - ・4カ月間は黄色の服着用を、国王戴冠式で (3/1)
 - ・タイ正月の旅行者は230万人予測=観光庁 (3/20)
 - ・親軍政が得票伸ばし続投濃厚 暫定結果、小選挙区はタクシン派 (3/26)
- インドネシア
 - ・MRT南北線第1期の開業を宣言 10年間で200キロ以上に (3/25)
 - ・22年に首都の地下水利用禁止 地盤沈下で50年には北部水没も (3/28)
- フィリピン
 - ・国際刑事裁判所脱退の見通し (3/13)
 - ・エルニーニョは6月まで、首都水不足に影響 (3/20)
- ベトナム
 - ・自動車レースF1、公道コースを発表 (3/5)
 - ・サイバー犯罪の摘発9千件、最多更新 (3/8)

(出所：各種新聞、雑誌)

アセアン・インド休日情報

2019年4月

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3 IN	4	5	6 TH
7	8 TH	9 PH	10	11	12	13 TH MM
14	15 TH CD	16	17	18 PH	19 SG ID IN PH	20 PH
21	22	23	24	25	26	27
28	29 JP	30 JP VN				

2019年5月

日	月	火	水	木	金	土
			SG VN PH IN 1 MM CD MY JP TH	2 JP	3 JP	4 JP
5 JP	6 TH JP	7	8	9	10	11
12	13 CD	14 CD	15 CD	16	17	18 CD ID MM TH
19	20 CD SG SG MY IN TH MY	21	22 CD	23	24	25
26	27	28	29	30 IN	31	

2019年6月

日	月	火	水	木	金	土
						1 CD IN
2	3	4	5 IN ID SG MY PH IN MY	6	7	8
9	10	11	12 PH	13	14	15
16	17	18 CD	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

※ナショナルホリデーのみ掲載
※祝祭日名省略

出典：ジェットロ各国情報等

- JP 日本
- MY マレーシア
- TH タイ
- SG シンガポール
- PH フィリピン
- VN ベトナム
- IN インドネシア
- MM ミャンマー
- ID インド
- CD カンボジア

めぶきFGアジアネットワーク

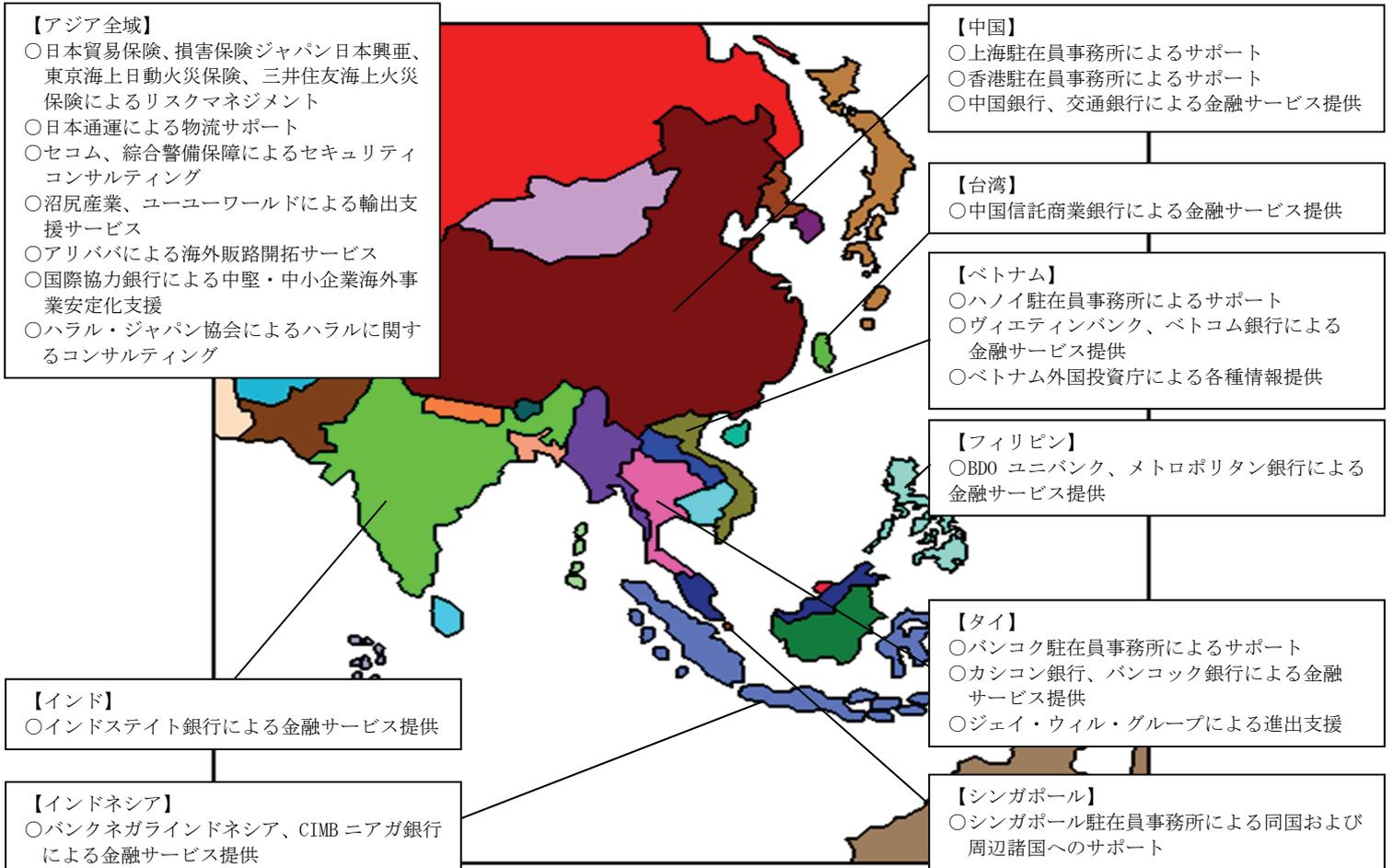
お客様の海外進出をサポートするため、様々な機関や外国銀行と業務提携を結び、支援体制の強化を進めています。

◎業務提携先一覧

提携先	常陽	足利	主な業務内容
中国銀行（中国）	●	●	中国国内情報の提供および各種金融サービスの提供
交通銀行（中国）	●		
中国信託商業銀行（台湾）	●		台湾情報の提供および各種金融サービスの提供
カシコン銀行（タイ）	●	●	タイ国内情報の提供および各種金融サービスの提供
バンコック銀行（タイ）	●		
バンクネガラインドネシア （インドネシア）	●		インドネシア国内情報の提供および各種金融サービスの提供
CIMB ニアガ銀行 （インドネシア）		●	
ヴィエティンバンク （ベトナム）	●		ベトナム国内情報の提供および各種金融サービスの提供
ベトコム銀行（ベトナム）	●	●	
ベトナム外国投資庁 （ベトナム）	●		ベトナム関連セミナーの開催協力 ベトナム進出に関する各種支援、投資関連情報の提供
BDO ユニバンク（フィリピン）	●		フィリピン国内情報の提供および各種金融サービスの提供
メトロポリタン銀行 （フィリピン）		●	
インドステイト銀行 （インド）	●	●	インド国内情報の提供および各種金融サービスの提供
パナメックス（メキシコ）	●	●	メキシコ国内情報の提供および各種金融サービスの提供
アグアスカリエンテス州政府ほか（メキシコ）	●	●	メキシコに関する現地市場調査 投資情報の提供
日本貿易振興機構（JETRO）	●	●	海外事業展開や各国制度等に関する各種情報提供
国際協力機構（JICA）	●	●	途上国での海外事業展開や各国制度等に関する各種情報提供
国際協力銀行（JBIC）	●		海外展開支援融資の提供
日本貿易保険（NEXI）	●	●	輸出取引を行う際の海外取引リスクに備える各種貿易保険の提供
中小企業基盤整備機構		●	海外事業展開や各国制度等に関する各種情報提供
東京海上日動火災保険	●	●	海外リスク情報等の提供
損保ジャパン日本興亜	●	●	リスクマネジメントコンサルティングサービスの提供
三井住友海上火災保険	●	●	各種損害保険の提供
セコム	●		海外での安全システム・防犯危機商品の提供
総合警備保障	●		海外セキュリティサービスの提供

◎めぶきFG海外駐在員事務所

常陽銀行シンガポール駐在員事務所	63 Market Street, #11-03 Bank of Singapore Centre Singapore 048942 TEL:+65-6225-6543
常陽銀行ハノイ駐在員事務所	5th Floor, Sun Red River, 23 Phan Chu Trinh Street, Hoan Kiem District, Hanoi, Vietnam TEL:+84-24-3218-1668
常陽銀行上海駐在員事務所	上海市延安西路 2201 号 上海国際貿易中心 1901 室 TEL:+86-21-6209-0258
常陽銀行ニューヨーク駐在員事務所	712 Fifth Avenue, 8th Floor, New York, NY 10019 TEL:+1-347-686-8420
足利銀行香港駐在員事務所	Suite 1601, 16th Floor, Tower 2, The Gateway, Harbour City, Kowloon, Hong Kong TEL:+852-2251-9475
足利銀行バンコク駐在員事務所	689, Bhiraj Tower at Emquartier, 27th Floor, Room No. 2714, Sukhumvit Road, Klongton-nue, Wattana, Bangkok, Thailand 10110 TEL:+66-2-261-2852



めぶきFGイベント情報

【FBC 江蘇 2019 ものづくり商談会 in 相城】

日程	2019年5月22日(水)～23日(木)
開催国	中国(江蘇省蘇州市)
会場	蘇州在水一方大酒店
概要	本商談会は、中国での販路拡大や部材調達を希望する日系ものづくり企業等を対象とする商談会で、約200社の出展企業が2日間にわたり自社製品等をPRし、約1千名のバイヤー来場を予定しています。 出展申込期間は終了しましたが、当日来場をご希望される方は、以下の照会先までご連絡ください。
費用	3,000 人民元/1 コマ (FBC 上海 2019 ものづくり商談会 出展企業様は無料)
URL	www.ecfna.com/Uploads/pdf/data/fbcxc2019_jp.pdf
照会先	常陽銀行 上海駐在員事務所 TEL +86-21-6209-0258 常陽銀行 市場国際部 国際業務室 各担当者 TEL 029-300-2728～2730 または、海外進出相談フリーダイヤルまで TEL 0120-5931-28

【第11回 香港・華南地区 日系企業ビジネス交流会】

日程	2019年6月14日(金)
開催国	香港
会場	ニューワールドミレニアム香港ホテル(旧ホテル日航香港) 2F / Grand Ballroom
概要	香港に拠点を持つ日本の地方銀行(16行)が協力し、11回目となる「香港・華南地区 日系企業ビジネス交流会」を香港で開催致します。お取引先様からの「変化の激しい中国のビジネス環境について役立つ情報が欲しい」、「同じ環境下で頑張っている日系企業同士のネットワークを広げたい」との共通のニーズにお応えするもので、今回より香港・華南地区に進出されていないお取引先様も参加いただけます。参加申込の締切は4月25日(木)となります。
費用	お一人様 300 香港ドル
照会先	足利銀行 香港駐在員事務所 TEL+852-2251-9475

【Mfair バンコク 2019 ものづくり商談会】

日 程	2019年6月19日（水）～21日（金）
開催国	タイ：バンコク
会 場	BITEC Hall 105
概 要	製造業（タイでの部品調達、販路拡大を目的とする製造業企業）やソリューション企業（製造業企業にサービス、製品を提供する非製造業企業）を対象に商談会を開催いたします。大手製造業企業と直接商談できるバイヤーズエリアやタイ企業とのマッチングサポートがあり、新たなビジネスを創出するきっかけの場としてご利用いただけます。
URL	http://www.mfairshow.com/
照会先	足利銀行 バンコク駐在員事務所 TEL +66-2-261-2852

【FBC 広東 2019 ものづくり商談会 in 南海】

日 程	2019年7月24日（水）～25日（木）
開催国	中国（広東省仏山市）
会 場	インターコンチネンタルホテル仏山
概 要	本商談会は、中国での販路拡大や部材調達を希望する日系ものづくり企業等を対象とする商談会で、約200社の出展企業が2日間にわたり自社製品等をPRし、約2千名のバイヤー来場を予定しています。 ご出展を希望される方は以下の照会先までご連絡ください。 出展申込期間は4月30日（金）までとなります。
費 用	3,000 人民元／1 コマ（FBC 上海 2019 ものづくり商談会ご出展企業様は無料）
URL	www.ecfna.com/Uploads/pdf/data/fbcnh2019_jp.pdf
照会先	常陽銀行 上海駐在員事務所 TEL +86-21-6209-0258 常陽銀行 市場国際部 国際業務室 各担当者 TEL 029-300-2728～2730 または、海外進出相談フリーダイヤルまで TEL 0120-5931-28

【FBC ホーチミン 2019 ものづくり商談会】

日程	2019年10月10日（木）～11日（金）
開催国	ベトナム：ホーチミン
会場	Phu Tho Indoor Sports Stadium
概要	<p>ベトナムでの部材調達や販路拡大を目的とする製造企業、製造企業にサービスや製品を提供するソリューション企業を対象に、商談会を開催いたします。</p> <p>Web上で商談の事前申込と顧客マッチングを行うことで、計画的かつ効率的な商談を行うことが可能となります。また、大手製造企業と直接商談できるバイヤーズエリアや、在ベトナム日系企業・ベトナムローカル企業に対し自社事業、製品をPRすることが出来ることから、新たなビジネスを創出するきっかけの場としてご利用いただけます。</p> <p>出展申込期間は2019年7月19日（金）までとなります。</p>
URL	http://fbchcm.factorynetasia.com
照会先	<p>常陽銀行ハノイ駐在員事務所 TEL +84-24-3218-1668</p> <p>常陽銀行 市場国際部 国際業務室 各担当者 TEL 029-300-2728～2730</p> <p>または、海外進出相談フリーダイヤルまで TEL 0120-5931-28</p>

【FBC 上海 2019 ものづくり商談会】

日程	2019年10月23日（水）～25日（金）
開催国	中国
会場	上海新国際博覧中心（上海市）
概要	<p>本商談会は、中国での販路拡大や部材調達を希望する日系ものづくり企業等を対象とする中国最大級の商談会で、約400社の出展企業が3日間にわたり自社製品等をPRし、約3千名のバイヤー来場を予定しています。</p> <p>出展対象は、自動化・ロボット、自動車関連、電子電機、環境・省エネ、機械設備など製造業全般となっています。</p> <p>ご出展を希望される方は以下の照会先までご連絡ください。</p> <p>出展申込期間は2019年7月31日（水）までとなります。</p> <p>なお、本商談会のご出展企業は、以下についても無料で出展可能となります。</p> <p>○FBC 江蘇 2019 ものづくり商談会 in 相城（2019年5月22日～23日） 蘇州在水一方大酒店（江蘇省蘇州市）</p> <p>○FBC 広東 2019 ものづくり商談会 in 南海（2019年7月24日～25日） インターコンチネンタルホテル仏山（広東省仏山市）</p>
費用	当行経由で申込の場合 8,500 人民元／標準コマ（約9㎡）
URL	www.ecfna.com.fbcs
照会先	<p>常陽銀行 上海駐在員事務所 TEL +86-21-6209-0258</p> <p>常陽銀行 市場国際部 国際業務室 各担当者 TEL 029-300-2728～2730</p> <p>または、海外進出相談フリーダイヤルまで TEL 0120-5931-28</p>

【Food Japan 2019】

日 程	2019年10月31日(木)～11月2日(土)
開催国	シンガポール
会 場	Suntec Singapore Convention & Exhibition Centre
概 要	<p>Food Japan は、ASEAN 市場最大級の日本の食に特化した見本市です。</p> <p>出展対象は、農林水産品、加工食品・飲料、食器・伝統工芸品、調理器具、食品機械、店舗設備、食品素材、アグリイノベーション、ほかサービスです。ASEAN 市場の商品開発者(食品メーカー)、食品・飲料仕入れ責任者(レストランオーナー、ホテル、スーパー・小売、商社・卸)との商談の場、最終日は一般消費者へのダイレクトなマーケティングの場、販売の場として機能します。</p> <p>出展申込期間は2019年7月31日(水)までとなります。</p>
URL	http://www.oishii-world.com
照会先	<p>常陽銀行 シンガポール駐在員事務所 TEL +65-6225-6543</p> <p>常陽銀行 市場国際部 国際業務室 各担当者 TEL 029-300-2728～2730</p> <p>または、海外進出相談フリーダイヤルまで TEL 0120-5931-28</p>